



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

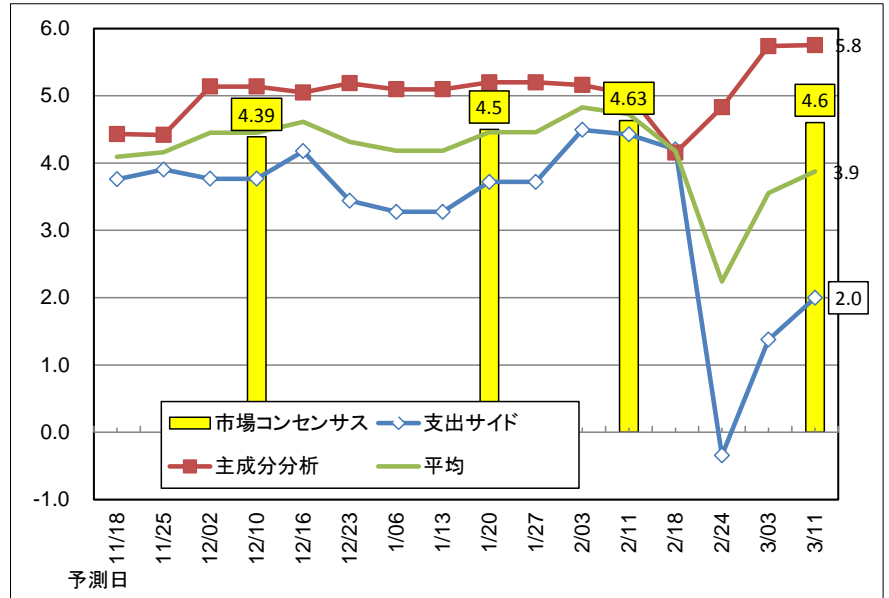
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年3月11日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、2月の財政資金対民間収支及び1月の毎月勤労統計である。加えて、10-12月期GDP2次速報値が更新された。
- ▶これらのデータは民間最終消費支出、公的企業在庫品増加及び雇用者報酬の予測に影響を与える。
- ▶1月の現金給与総額は前年比-0.2%減少した。3ヵ月ぶりのマイナス。うち所定内給与は22ヵ月ぶりのプラス。企業の業績改善を受け基本給にも改善の動きが広がりつつある。
- ▶1月の消費総合指数は前月比+1.1%上昇し2ヵ月ぶりのプラス。1月実績は10-12月平均比+1.1%高い。
- ▶10-12月期の実質GDP成長率(2次速報値)は前期比年率+0.7%となり、1次速報値から幾分下方修正。
- ▶今週(3/11)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.0%と予測。先週の予測(+1.4%)から上方修正された。駆け込み需要は内需を押し上げている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<駆け込み需要の影響により、1-3月期成長率は引き続き上方修正>

今回更新されたデータは、2月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、マネタリーベース、景気ウォッチャー調査及び1月の毎月勤労統計である。加えて、10-12月期GDP2次速報値が更新された。これらのデータは民間最終消費支出、公的企業在庫品増加及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

1月の現金給与総額は前年同月比-0.2%減少した。3ヵ月ぶりのマイナス。実質賃金は同-1.8%減少し、7ヵ月連続のマイナスとなった。現金給与総額のうち、所定内給与は同+0.1%となり、22ヵ月ぶりのプラス。企業の業績改善を受け基本給にも改善の動きが広がりつつある。

1月の消費総合指数は前月比+1.1%上昇し2ヵ月ぶりのプラス。結果、1月実績は10-12月平均比+1.1%高い水準となっている。駆け込み需要の影響が大きい。実際、1月の景気動向一致指数(CI)は前月比2.5ポイント上昇し、4ヵ月連続の改善となった。上昇幅は過去4番目に大きかった。

3月10日に発表された10-12月期の実質GDP(2次速報値)は前期比年率+0.7%となり、1次速報値(同+1.1%)から幾分下方修正された。

今週(3/11)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.5%、同年率+2.0%と予測。先週の予測(+1.4%)から上方修正された。1-3月期は内需が駆け込み需要の影響で大きく拡大(前期比+1.4%)するが、その勢いを純輸出(前期比-0.9%)が押し下げる。結果、13年度の成長率は前年比+2.0%(先週：+2.0%)と予測する。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690